



株主に文句を言わせない! バフェットに学ぶ価値創造経営

手島直樹 著 日本経済新聞出版社 1800円+税/318ページ

profile

てじま・なおき
小樽商科大学ビジネススクール准教授。CFA協会認定証券アナリスト。日本証券アナリスト協会検定会員。慶応義塾大学商学部卒業。米ピッツバーグ大学経営大学院でMBAを取得。アクセンチュア、日産自動車を経て、独立。2015年4月から現職。

02

投資家、企業経営者の 二刀流の実践に学ぶ

評者 スクウェアイブ代表取締役
黒須豊

日本企業の経営者に対して、投資の成功者であるウォーレン・バフェット氏に学んで経営を考えてみるべきだと啓発する書である。

ここで、なぜ投資家のバフェット氏なのかと疑問に思う読者も少なくないと思う。著者は投資家としてだけでなく、時価総額世界6位の企業の経営者として注目している。

投資家と同時に経営者としても成功した、いわば、投資家が行う企業価値評価と経営者が行う企業価値創造を一体化する二刀流を実践する人物として著者は高く評価する。

バフェット氏は、経営者と投資家の双方の利害が合致する落としどころを心得ており、そこから投資家への対応に悩む日本の経営者が学ぶべき点が多いと主張する著者は、かねてより、日本企業の投資家対応における行き過ぎたコーポレートガバナンスに警鐘を鳴らしている。本書は、そのような日本の経営者に対して落としどころのヒントを与えてくれる。

バフェット氏は、2014年の「株主への手紙」の中で、「私は自分の事業経験に投資家として助けられ、また自分の投資家としての経験によってよい経営者になった」と述べている。

これは本書内の引用の一節であるが、実は各経営指標の実運用から、資金調達の実践、取締役会や株主の役割に至るまで、事例を含めてバフェット氏の考え方について、彼の「株主への手紙」を多数引用する形で解説が掲載されている。この点が本書の際立った特徴となっている。

うがった見方をすれば、都合のよい部分だけを抜粋しているのではないかという意見もあるが、本書は、バフェット流の経営の実態を、多くのバフェット氏の実際の言葉と多数の事例を通じて学ぶことができる貴重な一冊といえるだろう。